

## 第 22 回（平成 29 年度 第 3 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

## 開催概要

- 日 時 平成 30 年 1 月 23 日（火）14：00～16：00
- 場 所 黒部市役所 2 階 201～203 会議室
- 出席者 協議会委員 15 名

## 委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	堀内 康男	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	夏野 光弘	欠席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	米田 吉博	所長代理 滝本民夫	
黒部市長《再掲》					
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	坂田 俊一	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	能登 政雄	欠席	
		黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	欠席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	稲澤 孝雄	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	牧野 和子	本人出席	
		公募委員	中谷 靖子	欠席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	高橋 智彦	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	平山 一良	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	山岸 忠政	本人出席	
富山県総合交通政策室次長 地域交通・新幹線政策課長		長田 知	主任 木田 猛		
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	本人出席	座長	
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事		川端 康夫	事務局長 坂井 英次		
Y K K 株式会社 副社長 黒部地区担当 黒部事業所長		井上 孝	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長		石橋 剛	欠席		
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

■事務局：黒部市総務企画部企画政策課：御囲部長、長田課長、山田理事、下坂係長、大坂主事

## 会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 経過報告
- 4 協議事項
  - 協議第 15 号 新幹線市街地線の一部運行形態の変更について
  - 協議第 16 号 新幹線生地線の休日における運行形態の変更について
  - 協議第 17 号 生地循環線の一部延伸について
  - 協議第 18 号 池尻線等の運行形態の変更について
  - 協議第 19 号 平成 29 年度交通まちづくり創生事業の中間報告及び平成 30 年度交通街づくり創生事業計画について
- 5 報告事項
  - 報告第 6 号 黒部宇奈月温泉駅乗降調査結果について
- 6 その他
- 7 閉会

## 開会

### 挨拶（堀内市長）

- 市長より挨拶を行った。

みなさんこんにちは。

本日は、

第 22 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、皆様方には大変ご多用のなかありがとうございます。

また、日頃から本市公共交通の推進・運営に関しまして、大変ご尽力賜っていることに、対し心から感謝申し上げます。

昨日は、首都圏の雪ということで、公共交通網が大変混乱した。

こちら、1 月 19 日あたりからかなりの豪雪で、特に県西部はかなり混乱した。新幹線に関しては、予定通り運行されたようだが、富山インターから西の高速道路はストップしたようである。また、あいの風とやま鉄道も運休ということで、金沢方面に行っていた人は、帰りが 6 時間～7 時間かかったということで、やはりこういう時にしっかりとした交通サービスが整備されることが重要だと思う。

さて、先月 15 日に JR 西日本、東日本から、北陸新幹線の春ダイヤ改正の概要版が発表された。改正日が 3 月 17 日に決まった。黒部温泉駅についてはこれまでどおり、はくたかは 15 本運行されることになった。しかし、通勤通学時間帯、はくたかの増便については反映されなかった。

特に朝の通勤通学の、西の方への利便については、1 便から 2 便の間が 2 時間近く空いていることについて、たくさんの方から間にもう 1 本入れてほしいとの声もあり、改正してほしいと感じている部分である。これについては今後も要望したい。

一方、市内のバス路線については、昨年 10 月に南北循環線の本格運行を開始した。

利用状況は、徐々にではあるが増えている。なんとか今後も一層の連携を図りながら、成功路線として作り上げていきたい。通勤だけでなく、市民の皆様の需要を増やさなければ安定した運行ができない。

他のバス路線については、いろいろ工夫もしている。ルート変更やダイヤの改正、利用促進など、様々な見直しをしている。それでも利用が増えないということで苦慮している。

なかなか増えないということは、必要ないのかとも考える。しかしながら、今運行しているバス路線を 1 回無くすとなかなか復活はできない。なんとか市民の皆様方の利用を増やすために、市の職員も含めて、月に 1 回以上公共交通を利用した生活になろうと声がけしている。生活そのものを見直していかなければ、公共交通の利用は増えない。

特に黒部の方は、一人一台車を持つ方が多い。地域のため、将来のために公共交通を整備、利用することが大事。公共交通を利用する生活に見直そう、利用しようという市民・県民運動として利用促進を図っていかなければならない。

本日は、バス路線再編を中心に議論いただく。なんとか持続できるように、忌憚のないご意見を頂きながら、活発な議論を重ねて、今後とも公共交通の持続に向けていきたい。よろしくお願い申し上げます。

## 経過報告

●事務局より、資料に基づき経過報告を行った。

○進行：長田課長

ただいまの経過報告について、ご質問があればお願い致します。

（特になし）

それでは、議事に移らせていただきます。

川端座長に進行をお願い致します。

## 議事

### (1) 協議第 15 号 新幹線市街地線の一部運行形態の変更について

●事務局より資料 1 に基づき説明を行った。

○川端座長

新幹線市街地線の朝夕 3 便と 22 便について、YKK 荻生製造所への速達性のため、西口に新たな停留所を設け新幹線との接続をとれるようにという案であった。この件についてご質問があればお伺いしたい。

YKKが独自に運行しているものを廃止して、こちらの方に乗っていただくように進めていく形になる。

○井上委員

会社としては、デマンド便を出すことは極力避けたいと思っている。今までは、速達性のために出していたのだと思うが、朝便のデマンドを外せると思う。ここに書いてある提案通り乗客の増加が見込める。

一方、帰りも就業時間からの待ち時間も多かったが、20分程短縮になる。乗り継ぎも良くなる。是非お願いしたい。

○川端座長

朝の便も配慮されるようになっている。なるべく利便性を高めて乗っていただくというのが目的だと思う。ご意見がなければ拍手で承認いただきたい。

（拍手にて承認）

それでは協議第 15 号を承認する。ありがとうございます。

(2) 協議第 16 号 新幹線生地線の休日における運行形態の変更について

●事務局より資料 2 に基づき説明を行った。

○川端座長

新幹線生地線の利用状況から土日祝日の利用方法を変えるということ。懸念は、土日の観光客への対応だが、一時間前の予約なら対応できるということである。需要によって運行形態を変えるということだが、この点についてご意見があればお願いしたい。

○長田委員（横田主幹代理出席）

区域運行といったらエリアのイメージだがどういう意味合いで使われているか。

○事務局

基本的に区域運行は、エリアのイメージでよい。ただ、新幹線生地線は、平日便として定時定路線のバス停が存在することから、エリアの中でこのバス停を活用するという考え方であらう。例えば、黒部宇奈月温泉駅で予約をして、魚の駅「生地」まで行きたいという場合は、路線ルートを通らずに直接、魚の駅「生地」に向かう。区域の中にたまたまバス停が存在するというイメージである。

○長田委員（横田主幹代理出席）

私のイメージの区域運行は、エリアの中で乗りたい人が、バス停から離れたところに家があり、その家から直接乗って目的地まで行く。というイメージである。今言われたのは、バス停からバス停までしかいかない。これを聞かれた方がどう感じられるか。

○事務局

スタート時点では、若干の分かりにくさが生じるかもしれない。その辺りは、観光局をはじめ、関係団体と連携を図りながら、周知 P R に努めたい。

○川端座長

デマンドと違うところが停留所に集まっていただくという形である。周知 P R をしっかりお願いしたい。

よろしければ他にご意見があればお願いしたい。

○井上委員

質問になるのかもしれないが、予算について、現状休日運行すると 660 万円の損失が発生することに対して、補填が 235 万円になる。差額分が発生しなくなるということ。補填を如何にして実行するか。予約に対する業務も煩雑というか、対応がどの程度の工数がかかるかが見えない。

○事務局

補填の関係については、市の方で予算要求している段階である。予約対応は、黒部市タクシー協会とすり合わせをしている。利用状況を見る限り、電話対応で受付可能との回答をいただいている。ただ、初めての取組みであり、定期路線として運行していたものが予約運行になるので、多少のとまどいも出てくると思う。利用者への周知、P R が課題になると考えており、先ほども申し上げたとおり、関係団体と連携を図りながら、利用者の皆様が勘違いしないよう、努めてまいりたいと考えている。

○川端座長

デマンドだと家の前まで来てくれるイメージがある。そのあたり誤解の無いようにしてもらいたい。

ご意見がなければ拍手で承認いただきたい。

（拍手にて承認）

それでは協議第 16 号を承認する。ありがとうございます。

(3) 協議第 17 号 生地循環線の一部延伸について

●事務局より資料 3 に基づき説明を行った。

○川端座長

運行される地鉄さんのご意見があれば。

○中田委員

車両の小型化は、2つの考え方がある。

ひとつは、全国的にバス運転手が不足する状況が震災以来続いている。当社も 1 割足りない。それを補充する意味で、普通二種免許で乗れる小型車両の運行。加えて、女性ドライバーの受け入れをやすくするための小型化等である。

もうひとつは、小型化することで、バスでは入りづらかった地域に乗り入れることでの利便性向上によって利用を維持したい。少子高齢化、人口減少は間違いなくやってくる。その中で小型車両を活用し、路線の維持を図っていきたい。

車両はワゴン車なので、大きさや電圧の関係で現状の IC カード機器設置は難しく、少しご不便をおかけすることになる。できる限りの対応をさせて頂きたい。ほかの議案でも小型化の話が出てくるが、このような状況であるのでご理解をいただきたい。

○川端座長

作業部会の中では、タクシーとの差別化などで懸念する意見もあったが、路線の維持のために理解いただきたいという話で進めてきた。

○井上委員

先に越湖製造所がある。「たなかや」さんで転回するのではなく、8 の字でそこまでいくようなことも考えられる。同じところを 2 回通るところがある。延伸で多少便利になるものの、もう少し先まで延ばすという議論はでなかったか。

○事務局

ルート案については、完成形ではないと考えている。小型化の提案があった中で、まずは芦崎地区の空白地域解消ということになった。次のステップで来年度以降、作業部会等で利用者が利用しやすく、維持していくことが可能な路線を協議していく必要がある。

○川端座長

今回、さらに延長するような話まではしていなかった。越湖工場へは、生地駅からの需要が多いと思われ、話し合いの中でそのようなことがあった。

○井上委員

ニーズは分からないが、直に電鉄黒部駅に行きたいような利便性を要求する声にもこたえられるかと考える。

○川端座長

ご異議がなければ承認の拍手を頂きたい。

(拍手にて承認)

それでは協議第 17 号を承認する。ありがとうございました。

(4) 協議第 18 号 池尻線等の運行形態の変更について

●事務局より資料 4 に基づき説明を行った。

○川端座長

ご意見ありましたらお願いします。

○長田委員（横田主幹代理出席）

今回の変更、今後の方針のところ、地域住民との協議のうえ、利用者数の目標値を設定されるということで素晴らしいこと。どのような形で目標値を設定するか、考えはあるか。

○事務局

行政の思いとしては、1 日の利用者数として、沿線住民の 1 %程度が欲しいと考えている。この沿線については、2700～2800 人の住民がおられる。1 日で 27～28 人。欲を言えば 30 人を目標値とできないかと考えている。高い目標値を立てると意欲が失われる。達成が可能で高めの数値を設定し、行政、地域住民、運行事業者と達成に向けて進めていきたい。

○川端座長

他に何かご意見がある方はいるか。

何もなければ拍手で承認いただけるか。

（拍手にて承認）

それでは協議第 18 号を承認する。ありがとうございました。

(5) 協議第 19 号 平成 29 年度交通まちづくり創生事業の中間報告及び平成 30 年度交通街づくり創生事業計画について

●事務局より資料 5 に基づき説明を行った。

○原田委員

自転車、高校生の利用について、どのような利用があったのか。

○事務局

高校生の利用につきましては、黒部市役所の隣に県立の高校がある。

その高校生の通学として、あいの風とやま鉄道の黒部駅から桜井高校へ多く通学している。その多くが自分で自転車を購入して、黒部駅前にある市の所定の駐輪場から利用、もしくは徒歩という状況だった。ただ、運用開始しばらくしてから、徒歩での学生が徒歩ではなく、5 人、6 人多い時は 7、8 人がまとまって「ちょいのり」を利用し、黒部市役所の駐輪場に止める。下校時は逆で、「ちょいのり」を利用し、まとめて黒部駅まで乗っ

ていく。こういった現象が起きている。

仕組みとすれば 100 円玉を入れ、降車時にロックすると 100 円が戻る仕組み。ラックを超える数の自転車が駐輪されると 100 円が返ってこない。その 100 円を返してほしいがために、自転車の元々ついているカギをかけて持ち帰ってしまうということが発生した。内部でも協議をし、一旦通学通勤利用を制限してみて、様子を見たいというところ。

○川端座長

他に何かご意見がある方はいるか。

30 年度の事業計画の中で質問があれば。

何もなければ拍手で承認いただけるか。

（拍手にて承認）

それでは協議第 9 号を承認する。ありがとうございました。

## 報告事項

### （2）報告第 6 号 黒部宇奈月温泉駅乗降調査結果について

●事務局より、資料 6 に基づき報告を行った。

○川端座長

何かご意見はあるか。

特になし。

地鉄さんの新ダイヤについてはいつ頃できる予定か。

○中田委員

目標として二月下旬。遅くとも三月上旬に完成予定。

○川端座長

ありがとうございます。

ここでアドバイザーである原田先生から一言お願いします。

○原田委員

色々と苦勞しながら、丁寧に対応されているのがよく分かる。いかに休日を運休しようとも平日を守ろうとしているか。

YKKさんの色々な施設を巡り、またバスをやめてまでこちらに乗せるということも、非常に良い。

バスに乗ったこともないというのが一番の問題。乗り方も分からないし、バス停はどこにあるかもわからない。

体験乗車会のご案内ということで、行く先の祭りやイベントをするときに、その日に無料で来て頂けるようにすれば、利用が多すぎなければ、そんなにすごいコストにはな



らない。そういった形でお金を使ってもらって体験してもらうのはよい。

よく利用する高校とそうでない高校の差は、もともと利用者がいて、利用方法が口コミで伝わるようなこと。

利用の仕方も違って、親にバス停に車で送っていくことも組み合わせている。

最初に、ある程度バス利用者を増やさないといけない。沿線に対して1%と言っているが、おまつりに合わせるかイベントに合わせるか。体験乗車会をもっと結び付けていくとよい。

## 閉会（堀内市長）

### ●市長より挨拶を行った。

委員の皆様には、熱心にご議論いただきありがとうございます。

冒頭にも申し上げましたが、バス路線は利用者が伸びない。原田先生が言われた体験乗車会についても、ただ募集するのではなく、イベントなどにバスを利用していただき、組み合わせという形で工夫できればと感じた。体験乗車会においては、町内会や自治振興会などに頼むのはいいが、これまでと同じ方がこられてもどうかと思う。

公共交通が便利に利用できる地方都市ということで、黒部市が世界の都市として認められているためには公共交通が必要。

苦勞するが南北循環線を成功路線としたうえで、ひろげていきたい。

目標値については、あまり手の届かないものにしても仕方がない。公共交通の利用ということで、沿線人口の1%と。石田は6000人おられるので平均60人。今の倍。

新幹線市街地線も無くなったら不便だという話が出てくるのだろう。ぜひとも乗る習慣。月に一回は公共交通に乗るようなことをお願いしたい。

どうぞよろしく申し上げます。